

# 展勝地風土記

Vol.29

令和元年10月25日

展勝地開園100周年記念事業実行委員会  
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業実行委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的なこと、地理的なこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。次回は令和2年1月24日に発行します。

## 『国見山文化を見なおす会』

## 展勝地風土記編集委員会

令和3年に開園100周年を迎える展勝地公園。1200年前に栄えた国見山仏教文化が背景にあることは言うまでもなく、霊山として連続と続いてきた一帯を一大公園にという考えのもと、澤藤幸治氏の提唱により開園されました。

月日は流れ多くの人々が展勝地を訪れ桜花爛漫を楽しんでいます。歴史的背景にある国見山仏教文化についてまではあまりよく知られていないのではないのでしょうか。

昭和51年、まちづくりや人材育成などに取り組んでいる(公社)北上青年会議所は、この北上のルートともいえる国見山文化について学ぶべく、中心となって「国見山文化を見なおす会」の立ち上げに奔走しまし

た。当時のいきさつが市内のタウン誌「萩のさと」に掲載されていたので転記します。

国見山文化への思い

「国見山文化を見なおす会」結成までの道程

「そんな大きな問題に取組むのは……」形が残っているものも少ないし……などの議論が続く。

昭和五十一年度の北上青年会議所社会開発委員会が『国見山文化の再認識』の事業に取組もうとしたときのことである。

そうした意見が出るのも無理はなかった。街頭でのインタビュ形式のアンケート調査を実施した結果では、国見山文化について知っている

人は、三十人に一人という嘆かわしい数字に終わっていた。しかし、逆にこうした数字が我々の取組む姿勢を前向きにし、拍車をかけてくれたことも事実だ。

北上市民が果してこれで良いのだろうか。ましてや次代を担う青少年が知らないということは。文化発祥の地、動植物の宝庫、国見山を理解することが、北上市民憲章の『明るい豊かな街づくり』の原点にもなるのではないか。

委員会は数回にわたって開かれ、議論に議論を重ねていき、その結果、われわれは、確かに大きな事業であるけれども、これだから大いなる勇氣を持って取組む必要があるという結論に達し、「国見山文化の再

認識」を、社会開発の第一事業に掲げる事に決定した。

例会に司東先生をお招きしての勉強会、対外広報紙「歩」を発行しての、市民へのご協力など、われわれは当初計画した事業を積極的に展開していった。

しかし、そこで一つの疑問にぶつかったのである。「この事業は、われわれはもとより、市民の問題として市民運動までもっていくべきではないか……」。

そこで、そのためには、他の団体の協力を仰ぎ、事業を進めるのが、最も効果的ではないかという結論をえ、さっそく、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、西ロータリークラブの三団体にわれわれの趣旨を説

明し、ご協力を求めたところ、快くご理解を頂き、市民運動としてのスタートを切る事になった。

準備委員会、設立委員会、発起人会を順次開催し、ここに「国見山文化を見なおす会」が正式に発足したのである。各クラブより運営委員を二名、事務局一名で、第一回の運営委員会で、郡司直衛氏を会長に、副会長に白井澄氏を選出した。そして、いろいろと事業を進めていくうえで、アドバイザーとして頂くために、司東真雄、藤原八弥、熊谷明彦、三浦新太郎、佐藤武雄、佐竹邦彦、本堂寿一の各氏をアドバイザー・スタッフとして選任し、各氏には全面的に協力するという、ありがたいお返事を頂いた。

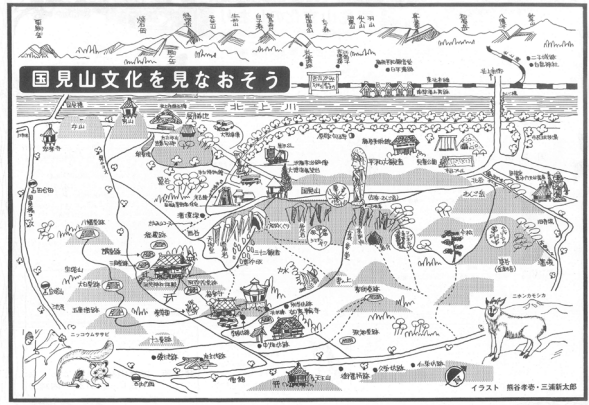
組織としてよりも市民運動としてスタートした「国見山文化を見なおす会」は、いま市民の間に広がろうとしています。

### 「国見山文化を見なおす会」

事務局長 高橋信一

「秋のさつ」16号 昭和51年10月15日

「国見山文化を見なおす会」では周辺の動植物までを取り入れたパンフレットを作成して市民に配布したほか、極楽寺駐車場にハイキング



国見山文化を見直す会が発行したリーフレット(昭和51年):中央図書館所蔵



「広報きたかみ」昭和51年10月5日発行号

コース案内板を設置するなど、歴史面だけでなく自然などについても取り組み内容としました。同会が実施した「国見山ハイキング」は「参加者は、三歳の坊やから八十六歳というご老人まで三百人という多さ。展勝地レストハウス前から、国見山山頂までのハイキングを楽しむと同時に、国見山の歴史や文化、植物について、藤原八弥氏、熊谷明彦氏、佐竹邦彦氏などの説明を受けて、郷土の宝ともいえる国見山への理解を深めました。」と、当時の「広報きたかみ」で伝えられています。

このハイキングの参加者募集チラシの片隅に「あなたも会員になりましょう」と囲みの一文があり、その中に「会員の資格は簡単です。年令、職業、宗教、思想など一切問



国見山文化を見直す会が発行したハイキングの参加者募集チラシ(昭和51年):(公社)北上青年会議所所蔵

ません。会の目的に賛同する人でさえあれば、どなたでも会員になれます。ただ、できれば年に一回、認識を新たにするために、国見山に登って頂きたいものです。それが出来なければ国見山を仰ぎ、おもしろいのはそれだけでも資格は十分です。会費の負担やそのほか何らの束縛もありません。

いかがでしょうか?あなたも会員の資格がおりでしょうか。何か腑に落ちない方、どうしても会への趣旨に賛同できない方は事務所まで御一報頂きたいと思えます。」と機知に富んだ一文が添えられていました。

開園100周年を迎えるにあたり、市民レベルでの、このような郷土愛に満ちた活動がよみがえって動き出すことが期待されます。